

「ねぎらい」はネギ背負う鴨が来ることか

近頃落語の枕では大谷翔平が首位を押さえてしまった感じがする。殆どの国民が敵意を持たずに聞いてくれる「大谷翔平」だから受け入れられやすいのかもしれない。

内閣総理大臣による、自党の新人議員への商品券配布問題が表沙汰になって、かれこれ半月余りの日が過ぎた。こちらの方が面白い「時事ネタ」なのに、思ったほど語られてはいないように感じる。事件の流れが公表された日に、率直な印象を川柳でメモ書きしてみた。

- もらったが 返した証拠 どこにある (返品受領書は残っているのかね?)
- ねぎらいで 10万私も 欲しいわよ (家庭の主婦のひとりごと)
- ネギ背負って 鴨が来訪 しただけさ (ねぎらい? 永田町ではあたりまえのことなんですよ)
- 私費ですと 150万 ポンと出し (俺も一度やってみたいと思うけど…)
- 150万 ポケットマネーか うらやまし (でも、出すのより、もらう側の方がいいねえ)
- ポケットが やけに大きな 背広かな (政治家の背広の標準規格、ポケットに底なしかも)
- 物差が 二桁違う 永田町 (いやいや、物差なんぞ、ごさいません)
- 口止料 ならばばれずに 済んだのに (石破君の作戦ミスだっただけのことか)
- 違法では ないとは言えど 非常識 (商品券を買ってきて配るとは意図的、しかもこの金額)

世間が騒々しくなってきたら、「とにかく謝ってしまえばいいんだ」と謝罪のメッセージ。そして、再発防止策を講じるんだという弁明。大手企業で不始末事故(事件)が発生すると、経営幹部が語る常套句は、「第三者委員会」と「再発防止策」。これを真似したつもりのようだが…

- 不手際の 自分に 再発防止策 (自分の行為について「再発防止策」はおかしい)

そして、令和7年度予算が成立した後の記者会見で、ふたたび謝罪のセリフがあったが、どこか投げやりな語り口で、「謝ればいいんだろ?」という開き直りが感じられる口調だった。

- まずここは 誤り続けて 逃げ切らん (何度も同じセリフで謝罪し続けるのは、大体うそが多い)

次なるセリフは、「国民の感覚からはかけ離れていた」と、巷間語られているキーワードを逆利用して、素人が見ても、心から詫びているようには見えない。そして、トドメを刺すように「自分を見失っていたところがあるかもしれない」と言語道断の発言。

天下国家を動かす宰相が「自分を見失っていた」と弁明するのも不可思議であるが、

それを「自分を見失っていたところがある」と他人事のような表現をして、さらに

「自分を見失っていたところがあるかもしれない」という曖昧な記憶をたどるような発言。

- 我がことも 夢か現か 他人事か (記憶がないのは永田町に広がる感染症か)
- アクセルを 踏み間違えて かもしれぬ (高齢者運転手による死傷事故と似てきたか…)

言葉を駆使してその場を繕おうとする姿勢があからさまに現れているが、言葉の正しい用法をわかっていないようで、聞けば聞くほどに不信感が増す、不思議な総理大臣である。

支持率回復の施策として残された手段は、「国民栄誉賞」か「北朝鮮単独訪問」ぐらいだろうか。